

## みなさまへおたより- 『母の夢…』に寄せて

10月1日午後5時です。今日のパリは夏が舞い戻ってきたかのように暑いですが、すでに秋の蜂蜜色の陽が射しています。

日本は猛暑の夏が過ぎ去って透き通った秋風が吹き始めるころでしょうか。

みなさまいかがお過ごしでいらっしゃいますか？私はいくつかの出来事がありました。心新たに秋のコンサートの準備にかかっています。芦屋市民会館では10月28日に椎名亮輔さんのピアノでフランス歌曲とシャンソンを歌います。その後、11月11日、大阪モーツァルトサロン（ピアノ：谷口敦子さん）、12月7日、東京王子ホール（ピアノ：寺嶋陸也さん）12月12日に沖縄のてだこホール（ピアノ：渡具知愛さん）で“『母の夢…』を歌います。

今年11月9日は母がこの世を去って30年になります。年月が経つにつれても母は遠のくどころかぐんぐんと近づき私の中に棲み生きています。

この頃はもう、この世に居ない幾人もの私の恩師や先輩や友が私の中に生き続け、彼らに生かされているように思えます。30年は長いようですが、思い起こすと非現実の夢を見ていた気もします。過ぎた年月は現実ですが、今もこうして歌い続けているのは夢かも知れません。母はペルーで生まれ育ち、日本に来て女学校時代を明石で送り、戦争が始まると天津に渡り終戦後に引揚げて来ました。

社会の流れに押し流されながらもひたむきに生きてきた母の愛を受けて育ちました。母は若い私が人生を歩む道を選ぶ時にもいつも私の自由を尊重してくれました。母が亡くなった時、私の中に母は居る！母のいのちを大切に輝かせよう！そのためには幸せを目指して生きよう！と誓いました。それは歌うことでした。この30年の間に母の不在の悲しみの中、母が私の中に息づいていて、その上に母だけではなく去っていった幾人もの愛しく思う人たちが私の中に生きていて、私自身は最早もう誰でもなくて、愛しみあった人たちの“いのち”なのだ、という気がしてきました。

『母の夢…』は母が亡くなって悲しみにくれていた時に作った曲目です。200曲近い曲から選びました。全ての曲には母とのエピソードがあります。そこに3曲だけ今回加えました。あの悲嘆にくれた時の歌とは今回また違った歌が生まれるでしょう。それは自分でもわかりませんが、歌は生き続け、人生が私を歌わせませす。歌心の根が私に語りかけます。

これらの曲目は私の母への個人的な物語ですが、母に注がれた愛を私は今“いのち”に感謝して愛の歌として捧げたいと思っています。

皆様がお聴きくださって、何かしら形のない温かい思いと優しい気持ちが生まれ出で、やがて“いのち”への讃歌となれば本望です。

奈良ゆみ 2023年10月1日、パリにて

